

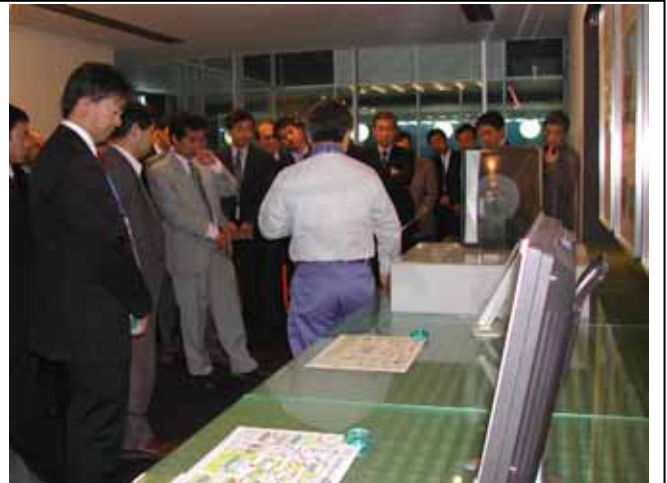
『旭硝子における技術・技能伝承の取組み』

団塊の世代の退職などに伴い、技術・技能伝承について各社で様々な取組みがされている。旭硝子の取組み事例について同社の「AGC(旭硝子)モノづくり研修センター(横浜市鶴見区)で2月9日(金)、第115回教育研究会を開催し、事例紹介と施設の見学会を実施した。

高い技術を担う人財の育成

旭硝子グループでは、定年等による離職、機械化・合理化の推進などで高度技術者・熟練技能者が減少し品質・安全面で課題が発生していた。'04-4 新経営方針の主要テーマの一つに「モノづくりへのこだわりと現場力の強化」を制定した。'05-4「モノづくり技術強化室」を設置しグループ共通技術・技能研修を開始し、その拠点として'06-7「モノづくり研修センター」を新設した。

技術強化室長の大日向正文執行役員より 技術・技能者の教育体系・育成基準書 技術・技能の評価システム 技能伝承教材の作成 人材活用制度の制定 風土・土壌づくりについて技術・技能両面から具体的なご説明があった。今年の高卒の新入社員から教育を開始、配属したところ現場から好評であり、'07より国内・アジア全関係会社を含めたグローバル



に活動を拡大していく予定とのことである。

実学一体教育を目指す研修センター

研修センターの見学は、林英男所長からご案内があった。センターは講義やパソコンの実習を行う「研修棟」と実際の板ガラス製造工程で使用している溶解窯や化学品製造設備などを設置し実技を行う「実習棟」を兼ね備え、理論と実践を身につける実学一体教育を実施している。実習棟では、ガラスの取扱いなど体感を通じた学習の重要性とその指導法についてご説明があった。大日向・林両氏から制度構築・施設建設に至る経験、運用への思い入れが感じられ、参加の皆様からもご好評であった。